

総合分析

試験区分	N方式		
制限時間	60分	大問数	全 6 問



合格に要する能力（5段階）

計算力	3.1	高度な計算をやり遂げる力
解析力	2.8	問題文を正しく読み取る力
知識力	2.7	解くことに必要な知識の量
初手力	2.8	初手の難しさ
見極力	3.3	解きやすい問題を選択する力

出題分野

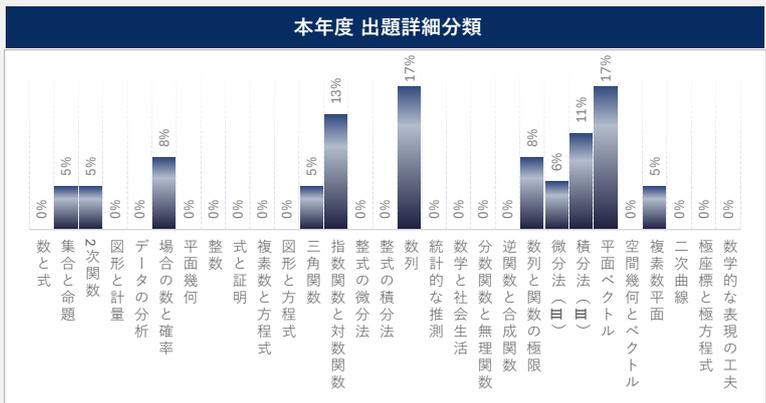
数学 I	10%
数学 A	8%
数学 II	18%
数学 B	17%
数学 III	25%
数学 C	22%

本年度 解答形式

マーク 100%

本年度出題テーマ一覧

第 1 問	小問集合
第 2 問	確率
第 3 問	垂心のベクトル
第 4 問	格子点
第 5 問	図形の極限
第 6 問	面積と回転体の体積



特殊問題の有無

記述なし	証明なし
統計なし	数IIIあり
	長文なし

特記事項 特になし

総合評価

難度	3.0	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	87%
分量	67分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	極めて高い正答率を要する	

入試の特徴と対策

- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 少ない単元の知識で解けるものが多い。単元ごとに公式を確認しておこう。

入試から見る大学が求める学生像

全て標準的な問題で非常に高得点を要する。制限時間を考えると満点は難しいかもしれないがそれに近い点数は必須となる。ミスなく作業をスピーディにこなす能力が求められていると考えられる。